

2. 河川の整備の基本となるべき事項

2.1 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項

基本高水のピーク流量は、基準地点新庄において、既往最大規模となった昭和42年7月洪水等を踏まえ420m³/sとする。このうち流域内の洪水調節施設により70m³/sを調節し、河道への配分流量を350m³/sとする。

表 2.1 基本高水のピーク流量等一覧表

河川名	基準地点名	基本高水のピーク流量 (m ³ /s)	洪水調節施設による調節流量 (m ³ /s)	河道への配分流量 (m ³ /s)
賀茂川	新庄	420	70	350

2.2 主要な地点における計画高水流量に関する事項

賀茂川における計画高水流量は、基準地点新庄において350m³/sとする。

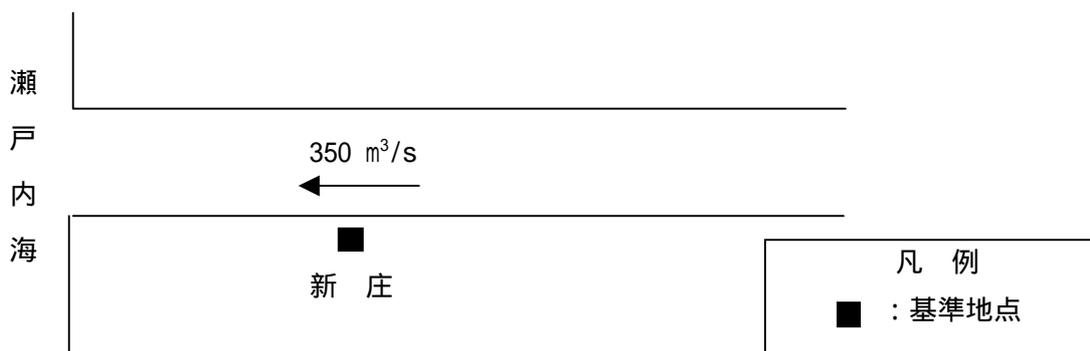


図 2.1 計画高水流量配分図

2.3 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係わる川幅に関する事項

本水系の主要な地点における計画高水位及び概ねの川幅は次のとおりとする。

表 2.2 主要地点における計画諸元一覧表

河川名	地点名	河口からの距離 (km)	計画高水位 T.P. (m)	川幅 (m)
賀茂川	新庄	8.00	+29.80	40

注) T.P.: 東京湾中等潮位

2.4 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項

賀茂川では、主要地点である中流部の新庄地点下流において、農業用水として12カ所で取水され、約70haを灌漑している。また、新庄地点における平均低水流量(昭和36年～平成10年の38カ年平均)は $0.50\text{m}^3/\text{s}$ 、平均湯水流量(同38カ年平均)は $0.27\text{m}^3/\text{s}$ である。

流水の正常な機能を維持するため必要な流量については、動植物の生息・生育環境、景観、流水の清潔の保持等の水環境の維持や、既得の水利使用の安定取水などを考慮し、新庄地点において、かんがい期(5/11～9/20)は概ね $0.51\text{m}^3/\text{s}$ 、非かんがい期(9/21～5/10)は概ね $0.34\text{m}^3/\text{s}$ とする。